

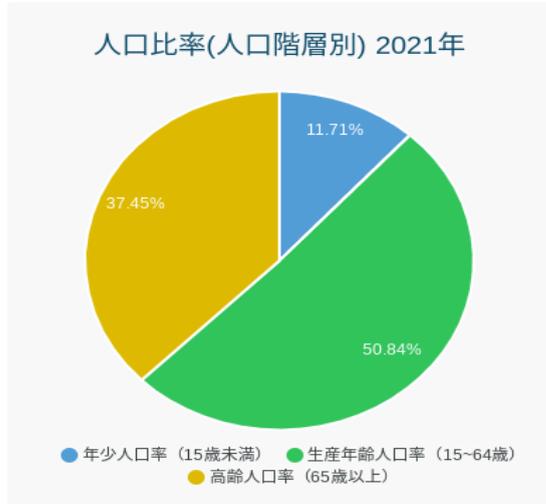
「熊本県山鹿市過疎化を防ぐための少子化対策」

鹿本高校

要旨

近年、熊本県山鹿市では年々人口が減少し少子高齢化が進んでいる。このままでは市全体の過疎化も進んでいってしまうことが考えられるため、山鹿市の人口や取り組みについて調べ、過疎化の進行を止めるために私たちにできることを考えた。

研究背景



このグラフを見て分かるように、高齢者の割合が多く、若い世代の割合が少ないので、このテーマについて考えた。

研究方法

○インターネットで調べる。

結果・考察

○少子高齢化の問題点

出生率の低下による若年層者と平均寿命の向上で働き手の減少による「社会保険料負担増加」や年金額が現世代の平均的な手取り金額より大幅に減少する「取得代替率」などがあげられる。

○少子化が与える影響

①経済的影響

生産年齢の減少や高齢化の発展、現世代の負担の増加がある。また、高齢の労働者の割合の増加は労働者供給の減少をもたらす。

②社会的影響

単身者や子供のいない世界が増加することで社会の基礎的単位である家族の形態が大きく変化したり、子供同士の交流の機会が減少したりすることで、子供の社会性が育まれにくくなったり子ども自身の健やかな成長への影響が懸念される。

○少子化が進む原因

未婚化や晩婚化の進展や夫婦の出生力の低下、仕事と子育てを両立できる環境整備の遅れや高学歴化、子育てに対する負担感の増加といった経済的不安定の増大などがある。

○少子化対策の取り組み

戦略的産業の推進と魅力ある雇用の創出や山鹿市を生き育てて暮らしやすくする取り組み、移住・定住・地域間交流の促進や子育て支援、働き方の改革などが考えられる。また、人口減少に歯止めをかけるために、移住等に関する相談窓口での支援を充実させるとよい。専用ホームページによる情報発信の強化、既存住宅の流通や活用を促したり、市外から転入される世帯への「三世同居住宅支援事業」や「空き家バンク活用促進事業」といった住宅環境整備にかかる費用の助成もある。

○外国で行われている対策

保育サービスの発達や子育て後の再雇用、子育て前後のキャリアの継続などが行われている。また、海外では育児休業が確保されている国が多いことから育児がしやすくなっている。

今後の展望

今回山鹿市の少子化問題について調べて、様々な取り組みが行われていることが分かった。しかし現状はまだ少子化は進んでいて、山鹿市の中でもたくさん問題が出てきている。私たちが考えた少子化対策として、山鹿市の特産物を使ったイベントのようなものを開催すれば子供もたくさん集まり山鹿市の良さを他の地域にアピールすることで移住をする人も増えると思う。これからも少子化は進み続けることが予想されているため、より一層対策をねっていく必要がある。

引用文献・参考文献

河野由紀『山鹿市:統計データ』株式会社ウェブダッシュ
<https://www.seikatsu-guide.com/info/43/43208/1/>

厚生労働省省議室『少子化の影響と主な対策に関する整理』厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2002/06/s0614-3a.html>

山鹿市『山鹿の未来を担う子どもの応援事業の実施について』山鹿市
<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1632204043468/simple/202205yamagashikasokeikaku.pdf>

内閣府公式SNS『新しい少子化対策について』内閣府
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/meeting/measures/19html/taisakuan.html>